



中堅研修発表会



退院支援カンファレンスの様子

## 中堅研修

### 「退院支援の取り組み」

中堅研修では、中堅看護師(経験年数4年以上)を対象として「看護師としての質の向上と生き生きとした職場作り」「民主的集団医療における役割を確認し、リーダーシップを発揮する」「民医連の医療・看護活動を理解し実践する」を目標に退院支援について学び、地域で信頼される病院作りという視点で研修を企画、2015年からは法人内の他職場研修を取り入れ運営しています。

講義と他職場研修で得た知識を基に、各職場で取り組んだ実践をまとめ、2月2日に発表会を開催しました。①入院時から退院支援を見据えた情報収集、②外来と病棟の連携、③他職種との有機的な連携など、研修での学びを活かした取り組みが発表され、活発な意見交換が行われました。本年度は8演題の発表があり、研修生を含め31名の参加でした。

退院支援の取り組みを始めて、研修生は延べ39名になります。研修生がこの学びを各職場で発揮し、患者様を全人的に捉える民医連看護の活動が行われていく事を期待しています。

今後の研修内容がより充実したものとなるよう検討しながら、研修の運営を行っていききたいと思えます。

4階南病棟 看護主任 重富信子

# 研修医紹介



医師  
志田 星児

初めまして、1月16日から米の山病院で初期臨床研修を始めました志田星児と申します。

群馬県出身、熊本大学医学部卒の37歳です。

地域に根差した米の山病院で、一人一人の患者様に丁寧に対応し、病気や怪我で不安な患者さんやご家族の気持ちに寄り添い、身近で話しやすく信頼される技術と知識を持つ医師になりたいと思っております。

また一緒に働く先輩医師や看護師さん他職種の方々とコミュニケーションを大切にして笑顔を忘れずに業務に従事し、明るい環境で医療を提供できるよう頑張りたいです。

これから一日一日を大切に過ごし日々精進していきたいと考えております。未熟者ではございますが、叱咤激励のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## 第9回 親仁会事例交流集会

親仁会国民運動委員会主催で2月9日(土)、米の山病院多目的室にて第9回親仁会事例交流集会を49名の参加で開催しました。

様々な事業所・職種から13の事例が集められ、退院調整や就労支援、患者であ

る子どもの家族への働きかけなど、SDHの観点に則り、苦悩し、奮闘している姿が明らかになりました。

また、山田眞一郎委員長の特別報告「私たちはなぜ社会保障闘争をたたかうのか」では、日本は諸外国と税金の集め方も使い方も異なっており、運動なしには医療介護は成り立たないことが強調されました。

参加者からは「患者さんと接していて背景まで考える事は殆ど無いが、実際には経済的な問題を含め様々な問題を持っているのだからと感じた」、「民医連にかかった患者・利用者さんたちはラッキーだったけど、これらはほんの一部に過ぎない」、「民医連らしさを感じました」などの感想が寄せられ、いっそうSDHの観点を強めることの重要性が認識されました。

中友診療所事務長

今村 俊彦



## 大牟田・荒尾地区放射線技師勉強会



1月19日(土)

大牟田・荒尾地区における診療放射線技師勉強会が開催されました。8施設41名の参加があり5演題発表がありました。

「救急撮影認定技師への道程」では、認定技師になるまでの学習や認定病院での実習等が紹介されました。認定技師になつてからも他職種との連携・役割等、様々な取り組みがなされていきました。

「アナフィラキシーショックを経験して」では、CT造影後に死亡された症例の報告でした。当院でも起こり得る事なのでショックの恐ろしさや対応など参考になりました。

「結核の基礎と臨床画像」では、肺結核画像の特徴をわかりやすく講義して頂きました。当院でも結核患者が来院し、結核かどうか画像の区別がつかない場合、画像の特徴を参考に活かしたいと思っております。

最後に施設見学や情報交換を行い、非常に活気ある勉強会になったと思います。

放射線科 野田 逸巳

# 褥瘡（床ずれ）対策委員会です

米の山病院の褥瘡対策委員会は今年で発足して17年になりました。

人は眠っている時、無意識のうちに「寝返り」をすることで体重が一定の場所に長時間かかるのを防いでいます。ところが、自分で寝返りができないと、体の同じところに体重がかかったままになり、血流の流れが停止します。この状態が長く続くと組織に血液が通わなくなり、組織が損傷してしまいます。これが、「褥瘡（床ずれ）」です。

これまで褥瘡発生予防のために体圧管理・栄養管理・スキンケアなどの取り組みを行ってきました。また褥瘡がある患者様では褥瘡を改善するために、お薬の検討も適宜行っています。お陰様で17年前に比べ発生率も下がり、早期にケアを行うことで改善率も上がっています。

今後、寝たきり高齢者の将来推計は、2025年には230万人になるとされています。褥瘡の危険因子の1つである寝たきりは、脳血管疾患の後遺症によるものや認知症、高齢による衰弱・老衰、関節疾患など様々な原因によって誰にでも起こる可能性があります。これからも多職種間で連携をとりながら、在宅・施設・外来へも支援できる体制を強化していきたいと考えています。

今後ともご理解ご協力のごほど宜しくお願い致します。

皮膚排泄ケア

認定看護師

竹下 裕子



## 学研e-ラーニング

医療の質が問われる昨今、医療安全・院内感染対策をはじめ様々な分野において知識と技術の向上が求められています。そのため医療法により医療安全と感染対策分野では全職員研修を「病院等全体に共通する内容について、年2回程度定期的開催するほか、必要に応じて開催すること」と義務付けています。

しかし全体研修会を開催し全職員が参加するというのは厳しい現状です。そこで学習ツールとして学研ナーシングサポート「e-ラーニングシステム」を導入しました。これは院内研修にすぐ活用できるオンライン講義です。

米の山病院では全職員が同じ内容の研修を受講できるように、医療安全と感染対策をランチョン形式で聴講できるように機会を設けています。

来年度からは「褥瘡管理」も学習が義務付けられます。患者様が安心・安全に医療を受けていただけるよう、全職員のスキルアップを目指します。

感染管理認定看護師

染谷 涼子



## 職場紹介

### 医事課



私たち医事課はこれまで医事課病棟と外来という入外別に組織されていましたが、2018年4月1日より、2つの課を統合し「医事課」となりました。入外を統括する事務次長1名のほか、入院担当6名、外来担当13名で構成されており、現在の平均年齢は35歳です。

医事課の日々の業務内容は、受付・電話対応・会計・入力作業をしており、病院の窓口として患者さんが快適に治療できるように意識しながら日々業務に携わっています。

また医事課は月初めには保険請求業務といった、日頃行われている診療行為を保険者に請求し、お金に換える作業を行っています。経営面で病院を支えられるよう、今後みなさんと協力していけたらと思います。

医事課主任 本村 大生

# 大根と豚肉の重ねカツ



## 材 料

- ・大根……400g（大きさ次第）
- ・豚バラスライス……200g
- ・塩コショウ……少々
- ・パン粉……適量
- ・小麦粉……適量
- ・卵……適量
- ・揚げ油……適量



栄養科  
野口 将人

## 作り方

- ① 大根の皮を剥き2～3ミリの輪切りにする（大根が大きい場合は半月切りに）。
- ② ①で切った大根の大きさに合わせて豚肉を切る。
- ③ ②で切った豚肉に塩コショウで下味をつける。
- ④ 下味をつけた豚肉と1の大根を、最初と最後は大根になるように交互に重ねる。重ねた厚さは1～2センチ程度の方が食べやすく揚げやすい。
- ⑤ 小麦粉→卵→パン粉の順で衣をつける。
- ⑥ 160～170℃くらいの少し低めの温度できつね色になるまで揚げる。

## 担当者コメント

おでんやお鍋を食べ飽きて余っている大根はありませんか？  
普段と違った大根料理をぜひ。



## クイズ 頭の体操

### 問 題

マッチ棒で描いた式があります。  
マッチ棒を**1本移動**して式が成立するようにして下さい。



No.91 (1月1日号)の答は**書初**でした。

ご応募ありがとうございました。

当選者は商品の発送をもって代えさせていただきます。

### 応募のしかた

答えを紙（ハガキ）に書いて、送っていただくか受付までお持ち下さい。FAXでも可。切は2019年4月10日。

機関紙や米の山病院についてのご感想、ご意見などもお寄せ下さい。

## 読者の声

☆いつも機関紙ありがとうございます。まず表紙を見て裏の料理とクイズを楽しんでいます。そのあと中身をじっくり読んでいます。いろいろな情報を提供していただきありがとうございます。

☆今回のきりたんぼ鍋、寒い季節柄美味しそうですね。まだ食べたことがないので妻に作ってもらって食べたいです。

☆毎回クイズに挑戦し、正解しています。認知症予防になるかも？

皆様からのお便り  
ありがとうございました。



## 夜間小児当番医のお知らせ

夜間小児当番医 (19:00～22:00)

3月23日、4月27日

休日当番医 (9:00～22:00)

5月2日

携帯ページはこちらから



アクセスは <http://www.kome-net.or.jp/m/>  
または QRコードからどうぞ